

令和4年度 学校マネジメントシート【年度末】

学校名（三重県立石薬師高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○自主・・・自ら努力して学び、自分の進路を自分で切り拓く生徒を育てる学校 ○創造・・・地域から信頼され、強い責任感を持ち、将来の社会に貢献する生徒を育てる学校 ○敬愛・・・笑顔にあふれ、人を思いやる豊かな人間性を持つ生徒を育てる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○基礎基本の学力を身につけ、主体的に学習に取り組むことができる生徒 ○自己の進路についてしっかりと考え、その実現に向けて努力する生徒 ○豊かな人間性を身につけ、将来、社会の一員として責任感を持って貢献できる生徒
	ありたい 教職員像	○互いに声を掛け合い、協力し合って、「チーム」として教育活動に取り組む教職員 ○授業を大切にし、研鑽を重ねて、授業力向上に取り組む教職員 ○生徒に寄り添い、笑顔と元気を絶やさず、丁寧に粘り強く生徒の指導に取り組む教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を 提供する相手と そこからの 要求・期待	<生徒> ・希望の進路を実現するために必要な能力（学力、コミュニケーション力など）を身につけたい。 ・学習だけでなく、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事や部活動等でも充実した高校生活を送りたい。 <保護者> ・子どもがしっかりと学習し、希望の進路を実現するよう指導してほしい。 ・いじめや暴力がなく、必要な支援を受けながら、子どもが安心して学ぶことができる学習環境を提供してほしい。	
	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と 連携するうえでの 要望・期待	<保護者> ・基礎基本の学力をはじめ、社会で求められる力を身につけさせてほしい。学校と連携するために、学校での子どもの様子等を教えてほしい。 <地域及び地元企業> ・学習に誠実に取り組み、卒業後は地元で活躍する生徒を育ててほしい。 ・生徒が基礎的な学力や社会人として必要な資質を身につけられるように指導してほしい。 <中学校> ・義務教育段階での学習内容の定着が不十分な生徒もいるが、基礎・基本をしっかりと指導して、進路希望を実現させてほしい。 <杉の子特別支援学校石薬師分校> ・本校と杉の子特別支援学校石薬師分校（以下、「石薬師分校」という。）の生徒が交流することを通じて、両校の生徒の人格形成や成長につなげたい。 <関係機関（警察、児童相談所、SSW、SCなど）> ・生徒の安全・安心な学校生活のために連携を密にしてほしい。	<保護者> ・学校の指導方針を理解し、保護者も生活習慣や服装等の指導をしてほしい。 <地域及び地元企業> ・生徒が卒業後に地元で就労し活躍できるよう、雇用の拡大に努めてほしい。 ・インターンシップの受け入れなど、学校との連携・協力を推進してほしい。 <中学校> ・高校生活に必要な基礎的な学力や基本的な生活習慣を身につけさせてほしい。 ・生徒が高校生活を順調にスタートできるよう、情報共有を密にしてほしい。 <杉の子特別支援学校石薬師分校> ・本校に在籍する特別な支援を必要とする生徒の指導について、専門的な視点からの指導、助言をしてほしい。 <関係機関（警察、児童相談所、SSW、SCなど）> ・生徒の安全・安心な学校生活を確立するために、連携を密にし、協力してほしい。 ・専門的な見地からの指導や助言をしてほしい。

(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様子に落ち着きが見られるようになっており、転学・退学などの進路変更をする生徒の数が減っている状況がある。授業や部活動で教職員が改善を図っている状況が見受けられる。対外的な活動を含めて、学校にさらなる活気を醸成してほしい。 ・生活指導や礼儀を徹底させることには難しさもあるだろうが、根気よく指導いただきたい。 ・地元企業に就職を果たす人材を輩出する学校として位置づくことは、石薬師高校の強みである。今後も、「サクラサク・プラン」を基盤としつつ、生徒に対するきめ細やかな指導を継続してほしい。 ・杉の子特別支援学校の併設は共生の心を育むうえで良い学校環境であり、本校の教育活動がさらに活性化されるよう連携した取組を進めてほしい。
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習態度等は、落ち着いてきてはいるものの、学力は多様であり、学習習慣が十分に身につけていない生徒が見られることから、「わかる授業」を通じて、学ぶ楽しさを実感し、学習の仕方をつかむことができる授業づくりへの継続的な取組が必要である。 ・生徒の家庭環境や生活背景が多様であることや、特別な支援が必要な生徒もみられることから、すべての生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との連携を充実させ、教職員が「チーム石高」として、生徒一人ひとりとしっかりと向き合い、サポートする必要がある。 ・生徒一人ひとりが進路実現に向けて自ら考え、取り組むことができるよう、3年間を見通したキャリア教育の充実にも努める必要がある。
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員は、学習面、生活面などあらゆる教育活動を通じて、生徒に対してきめ細やかな指導を行い、また工夫改善にも取り組むことで、成果が上がっている。一方で、クラス数減による教員数の減少に伴い教員の負担増が見込まれる。働き方改革の観点からも、業務の整理や効率化等による総勤務時間の縮減に向けた具体的な取組の推進が必要である。 ・杉の子特別支援学校石薬師分校中学部が令和5年に移転することも見据えて、両校の強みを生かし、生徒の成長に資するために、それぞれが持つ教育の専門性や機能を生かした取組ができるよう、より一層、交流や情報交換を推進する必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で必要とされる基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、生徒が学習することの意義を理解し、主体的に学習に取り組むことができるよう、個に応じたきめ細かな指導を引き続き充実する。 ・生徒が、人や地域との関わりの中で、他者への優しさや思いやり、生命の尊さや人権を尊重する心、感謝の心など、豊かな人間性を身につけ、将来、社会の一員として貢献することができるよう、教育活動全般を通じて命を大切にす教育、心の教育を進める。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導や生徒指導、進路指導など、学校のすべての教育活動において、教職員が一体となって取り組むことができるよう、また、教職員全員がやりがいを持って職務を遂行できるよう、日常から互いに声を掛け合い、協力し合うとともに、教職員同士が知識、ノウハウ等を共有し、互いに教え合い、高め合うなど、「チーム力」の高い集団づくりを行う。 ・生徒及び教職員が快適で充実した学校生活を送ることができるよう、積極的に校内、学校周辺や通学路の美化活動、環境整備に努める。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
授業力の向上・学習指導の充実	(1) ユニバーサルデザインの視点に基づき、教職員全員が共通理解のもとで統一したスタイルで授業を進めることにより、生徒が安心して授業を受けることができるしくみづくりを引き続き進める。 (2) 一人一台学習端末を積極的に活用し、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習(いわゆる「アクティブ・ラーニング」)等の手法を取り入れ、生徒一人ひとりが授業で活動したことを実感できる授業づくりを進める。 (3) 授業力向上週間を設定し、授業公開及び教職員相互の授業見学と授業研究による授業力の向上を図る。 【活動指標】 授業の始めに授業のねらいと目標を明示するなど見通しを示している教職員の割合 100% 【活動指標】 教職員一人あたりの授業見学の回数 1回以上 【成果指標】 学校満足度調査で授業内容の理解について肯定的な回答をした生徒の割合 80%	・4月当初に全教職員で「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」を確認し、授業場面等で実践した。 ・「授業力向上週間」を設け、教員が互いの授業を見合い、気づいた点などをフィードバックするなどして授業改善に取り組んだ。 ・ICT機器を活用した授業を推進するなどして、生徒が主体的に学習に取り組む授業実践事例が増えた。 ◆授業のねらい、見通しの提示:100%(前年 92.6%) ◆授業見学実施(1回以上):91.7%(前年 100%) ◆石薬師高校の授業に満足した生徒の割合:91.3%(前年 85.2%) ◆石薬師高校の授業内容を理解できると回答した生徒の割合:81.3%(前年 76.1%)	◎
生徒指導の充実・豊かな人間性を育む教育の充実・命の尊さを理解しいじめのない学校の実現	(1) 生徒の頭髪や服装等の指導方針について、教職員が共通理解し、生徒にとってわかりやすい指導を進めることで、生徒の規範意識を高める。 (2) 明るくさわやかなあいさつを自ら行う学校づくりを進める。 (3) 「石薬師高校版インクルーシブ教育システム」を活用し、生徒への声のかけ方など一致した考え方で指導にあたり、生徒の心の成長を促進する。 (4) 模範生徒表彰制度を継続し、真面目に努力する生徒を激励するとともに、生徒の意識の醸成を図る。 (5) 生徒同士が、お互いの人権を尊重し、思いやりの心を持っていじめのない安心した学校生活を送れるよう、きめ細かな観察と支援に努める。 【活動指標】 模範生徒表彰の実施 3回 【成果指標】 学校満足度調査で学校生活の安心感について肯定的な回答をした生徒の割合 80%	・「生活の手引き」を運用し、生徒一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導・支援を行った。 ・生徒の悩みや困り感について把握し、教育相談体制を強化した。 ・良い行動をした生徒に与えるブルーカード制度を活用し、模範的な生徒の表彰も行いながら、生徒が安心して学べる学校づくりに努めた。 ・学校生活に不安を感じる生徒が生じないよう情報共有と組織的な取組を進める。 ◆模範生徒表彰:3回 ◆安心感で過ごしていると回答した生徒の割合:87.8%(前年 79.3%)	◎
キャリア教育(進路指導)の充実	(1) 生徒が自己の進路についてしっかりと考えることができるよう、必要な情報提供を行うとともに、きめ細かな相談体制を構築する。 (2) すべての生徒が希望する進路を実現できるよう、「サクラサク・プラン」の内容を充実・活用し、系統的なキャリア教育、進路指導を継続して実践する。 【活動指標】 個別・三者面談の実施 4回 【成果指標】 学校満足度調査で目的意識の有無について肯定的な回答をした生徒の割合 80%	・面接指導や外部人材の積極的な活用により、学校斡旋で就職内定した生徒の割合が100%を実現した。 ・進路指導部と学年が連携し、インターンシップや企業見学等の取組みを充実させることができた。 ◆面談実施:計4回 ◆高校進学目的として学業や進路決定に関わる回答をした生徒の割合:83.6%(前年 80.1%)	◎

改善課題

・本年度入学生から1人1台端末の活用がスタートし、アサガクの取組をスタートさせ一定の成果があったことから、今後も授業やその他活動における積極的な取組を進めていく。新学習指導要領の実施により本格的に実施している探究学習や観点別学習状況評価についても検証していく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教職員のチームワークの向上と不祥事を許さない職場づくり	<p>(1) 教職員が互いに声を掛け合い、協力し合って教育活動に取り組み職場環境をつくる。</p> <p>(2) 管理職や経験豊富な教職員が教えるのではなく、職場みんなで互いに「学びあえる」職場風土をつくりあげる。</p> <p>(3) 学年・分掌の枠を超えて、学校環境の改善、教職員の資質の向上について話し合う。</p> <p>(4) 授業担当者会議を通じ、生徒の状況について情報共有を図る。</p> <p>(5) 継続的なコンプライアンスミーティングや振り返りを実施し、当事者意識の定着と教職員の不祥事を許さない風土を醸成する。</p> <p>【活動指標】学校環境の改善等について、学年・分掌の枠を超えて話し合う学校向上委員会の開催 10回</p> <p>【成果指標】教職員を対象にしたアンケートにおいて、教職員のコミュニケーションが図れているということについて肯定的な回答をした教職員の割合 100%</p>	<p>・コンプライアンス研修を実施、当事者意識をもって考え、組織全体の意識向上につなげる機会に設けた。</p> <p>・オフサイト・ミーティングとして、信頼される学校づくりに向けて各自の気づきを交流する機会を設けた。</p> <p>・コンプライアンスに係わるセルフチェックを実施、結果をフィードバックし、意識向上につなげた。</p> <p>◆石薬師高校向上委員会: 10回(前年10回)</p> <p>◆学校信頼向上委員会: 4回</p> <p>◆教職員間の意思疎通: 80.0% (前年92.6%)</p>	◎
保護者、地域、中学校等との連携	<p>(1) 学校での生徒の様子、生徒の家庭等での状況について、保護者との連絡・情報交換を密にする。</p> <p>(2) 保護者あて配布物の用紙を黄色にすることや、一斉メール、HPでの発信等での工夫を行うなど、学校からの情報を確実に届けるとともに、生徒、保護者にとって、わかりやすい情報提供に努める。</p> <p>(3) 地元での就職希望を実現するため、地域や地元企業が望む人材等についての情報交換を行うなど、連携を図る。</p> <p>(4) 生徒が本校入学後に順調に高校生活のスタートを切ることができるとともに、途切れることなく必要な配慮や支援をできるよう、中学校等との情報共有を密にする。</p> <p>【活動指標】保護者懇談の実施回数 2回</p> <p>【活動指標】家庭連絡を密にしていると回答した教職員 100%</p> <p>【成果指標】保護者対象アンケートで学校の様子がわかることについて肯定的な回答をした保護者の割合 80%</p>	<p>・保護者に対して日常から速やかな電話連絡や家庭訪問等を通じて意思疎通及び情報共有を行った。</p> <p>・学校からの連絡について、メール等を活用してわかりやすい情報伝達に努めた。</p> <p>・地元企業や各種学校との連携を密にし、生徒の進路実現につなげた。</p> <p>◆保護者懇談実施: 年度内4回(うち2回は全員が対象)</p> <p>◆家庭連絡を密にしていると回答した教職員の割合: 100%(前年88.8%)</p> <p>◆学校の様子がわかると回答: 71.2%(前年59.7%)</p> <p>◆生徒一人ひとりにきめ細かい指導をしていると感じる保護者の割合: 82.7%(前年82.2%)</p>	◎
教職員が働きやすい環境づくり	<p>(1) 教職員が心身の健康を維持し、意欲的にかつ、ゆとりを持って教育活動に取り組めるよう、時間外労働時間を削減し、年次有給休暇の取得を促進するなど、総勤務時間の削減を図るための具体的な取組を進める。</p> <p>(2) 管理職と教職員が、相互に協力し、職場の実情に応じた取組を積極的に講じるよう努める。</p> <p>【活動指標】設定した日の定時に退校できた教職員の割合 100%</p> <p>【活動指標】予定どおり休養日を実施できた部活動の割合 100%</p> <p>【活動指標】放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 100%</p> <p>【成果指標】時間外在校時間が年360時間を超える教職員数 0人 時間外在校時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人</p> <p>【成果指標】一人あたりの月平均時間外在校等時間 10時間以下 一人あたりの年間休暇取得日数 15日以上</p> <p>【活動指標】学校環境の改善等について、学年・分掌の枠を超えて話し合う学校向上委員会の開催(再掲) 10回</p>	<p>・総勤務時間の削減については、定時退校や年休取得の促進等を呼びかけたが、達成できなかった。</p> <p>※年間休暇取得、向上委員会以外の数値は4~12月の期間分</p> <p>◆定時退校日(月2日)設定した日の定時に退校できた教職員の割合: 76.0%(前年94.6%)</p> <p>◆部活動休養日している部活動: 100%(前年100%)</p> <p>◆60分以内の会議の割合: 84.6%(前年81.0%)</p> <p>◆年間休暇取得: 15.3日(前年12.5日)</p> <p>◆時間外労働月45時間以上: 29人(前年12人) 年360時間以上: 3人(前年2人)</p> <p>◆向上委員会: 10回</p>	◎
改善課題			
<p>・教員定数の削減により一人あたりの業務負担が増えるとともに、多様な生徒へのきめ細やかな指導をはじめ、教職員に求められる様々な業務に追われ、働き方改革については改善されていない。育児・介護等を担う教職員もいることから、ワーク・ライフ・バランスを考えた効率的な業務運営を推進していく必要がある。</p>			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった 改善課題と次への 取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での学習内容があまり理解できていない割合が比較的あるので、基礎学力をつけることが最重要課題である。 ・チームワークの向上としてはミドルリーダーを育てていくことが重要である。OJTで若手の人たちが悩んでいることを研修したりすることは、教職員のコミュニケーションという意味でうまくいくと思う。 ・自転車通学者に安全意識を持っていただくために、高校においても交通安全教室を実施した方が良い。 ・ICT機器を活用した授業について、個々にタブレットを持って学習できることは良いことだと思うのでこのまま続けていってほしい。 ・家庭と連携が密に取れているところは素晴らしいと思うが、一方で教職員の時間外労働につながっているので改善が必要である。
--------------------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動につ いての改善策</p>	<p>【授業力の向上・学習指導の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各担当者の細やかな指導により、落ち着いた環境で授業を実施することができているが、基礎学力向上に特化した学習活動や主体的・対話的で深い学びにつながる授業研究を推進し、教科を横断した授業改善に取り組んでいく。 ・本を1冊も読まない生徒が多くいる中、図書室を学習センターとして位置付け、教科や特別活動との連携をはじめ、情報コンテンツとの融合など魅力化を図り、読書活動を充実していく。 ・情報推進担当をキーパーソンとして、アサガク・授業・特別活動の場で、一人一台端末の活用を促進・充実させていく。 <p>【生徒指導の充実・豊かな人間性を育む教育の充実・命の尊さを理解しいじめのない学校の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会役員が校則について話し合う機会を持ったり、生徒による挨拶運動を実施したりすることで、身だしなみを整えられる生徒が増えるなどの効果が出ており、今後も生徒の主体的な取り組みを充実させていく。 ・いじめ防止に向けた組織体制の改善をはじめ、SNSトラブルの未然防止などいじめ防止に向けた取り組みをさらに強化していく。 <p>【キャリア教育（進路指導）の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップへの全員参加や模擬就職活動により進路について深く考える体験活動をつくることのできていることから、キャリア教育計画「サクラサク・プラン」を見直しながら、生徒が目標を明確に持って進路実現をしていくための取り組みを実施していく。 ・就職、進学どちらの対策についても、3年生の夏を目標にして早めに取り組みを進めていく必要があり、個々の生徒の状況に応じて2年生から進路指導を充実させていく。
<p>学校運営につ いての改善策</p>	<p>【教職員のチームワークの向上と不祥事を許さない職場づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教育課題の最新情報について見識を深めるとともに、本校の組織運営体制の改善を図るため、教職員研修会を計画的に実施していく。 ・個々の生徒に寄り添った効果的な支援を行うため、教育相談、特別支援教育に関して、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、各支援員との連携体制を構築していく。 ・不祥事を許さない、風通しの良い職場づくりの一環として、オフサイト・ミーティングを定期的に実施していく。併設する杉の子特別支援学校との合同開催についても検討していく。 ・各学年の人権学習の取り組みを次年度に引き継ぐとともに、教職員人権研修会について継続して実施していく。 <p>【保護者、地域、中学校等の連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の保護者会で、保護者との連携体制について確認を行い、生徒・保護者に寄り添った支援をはじめ、わかりやすい情報提供に努めていく。 ・地域社会に貢献できる人材育成に向け、地域事業所や関係機関との連携を一層深めていく。 ・併設の杉の子特別支援学校とのより一層の連携をはじめ、地域の小中学校やまちづくり協議会と連携した行事などに積極的に参画していく。 <p>【教職員が働きやすい環境づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日、学校閉校日、会議時間短縮等の取り組みを継続して行うとともに、教職員の健康維持のために休暇がとりやすい体制づくりに努めていく。 ・担任や分掌が担っている業務を見える化し、副担任や他分掌のサポートを増やすなど学校全体で業務に取り組む体制づくりを推進していく。 ・デジタル採点システムなどICTを活用した業務の省力化に組織全体で取り組んでいく。 ・過重となっている業務を見直すなど、校務のさらなる精選に取り組んでいく。